

庭を室内に取り込んで暮らす インナーテラスガーデン

ガーデナー建築家・勝田無一さんが提案する「インナーテラス」は、家の中に外部空間を取り込んだ半戸外の新しい生活スペース。インナーテラスのある実例を紹介しながら、空の下の自在空間に、家族が楽しくつろげる場をつくるにはどうしたらいいか、そのノウハウを伝授していただきます。

縁側、軒先、前庭、土間——日本の住宅になくてはならなかった外部的な生活の場。古来から日本人は「外」と浸透性のある生活をしてきました。しかし近年こういったスペースは切り捨てられ、敷地が狭い、庭がない、騒音が入る、プライバシーがないなどの住宅事情で、屋内に引きこもることを余儀なくされてしましました。そこで私は、外部空間の生活機能を住宅の内部に取り込むことによって、外と内がゆるやかにつながった新しい生活スタイルが生まれるのではないかと考えました。

こうしてできた「インナーテラス」は、家の中にある、半戸外のアウトドアリビング。昔の民家の土間を明るくしたような、縁側や軒先の生活を家の中に再現したような空間です。野外でバーベキューをしても、風が強いと不快だし、雨が降れば大あわてになります。しかしインナーテラスなら、雨が降っても風が強くても大丈夫。洗濯物干し、植木鉢の植え替え、日曜大工、子どもの水遊びまで、今まで外でしていた生活がリビングルームでできてしまう、便利で楽しい生活テラスなのです。



勝田 無一 (かつた・むいち)
建築家・造園家

1951年静岡県出身。
1974年東洋大学工学部建築学科卒業。
1983年(有)創設計設立、代表。
住宅・マンション・施設店舗の設計から、造園・ガーデンデザインの設計まで、「庭と作り」をテーマに活動。
著書「私の設計顛末記」創設計、「人気ガーデナーのガーデンデザイン」世界文化社、住宅雑誌等掲載多数。

PLAN 2

狭い庭を広く楽しく使う 土間テラスのアウトドアリビング

T様邸

このインナーテラスは、床にタイルを敷き、一部に土を入れて樹木や草花を植え込みました。二層吹き抜けの南側は、間口いっぱいにガラスパネルの折戸サッシを設置。サッシを閉じれば室内になり、サッシを引くと全面開口。まさに「外」になります。

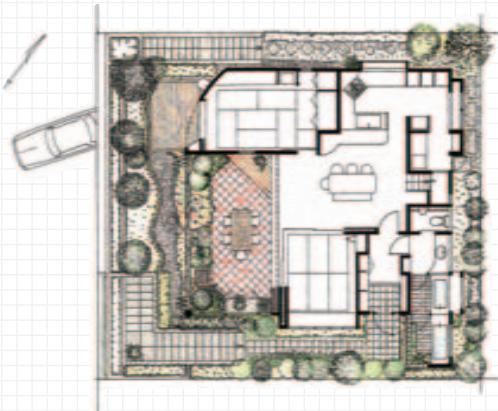
リビングに直植えの植物があり、子どもが水遊びできる土間テラスがある。汚れたら水洗いできるので、犬小屋も置ける。レンガの炉も設置したので、雨や風を気にせず、アウトドア気分でバーベキューも楽しめます。



二層吹き抜けのインナーテラス。横引きガラス折り戸を開放すれば、外との仕切りが消えて庭とテラスが一体化。限られた庭スペースを広く演出。



インナーテラスは水遊びOK！
子どもたちは室内にいながら自由に外遊びを楽しめます。



家中にいることを忘れるような高い天井と開放感。
2階には窓掃除用のキャットウォークが巡らされ、手すりは物干しや布団干しにも利用されるとか。



そこが聞きたい！

インナーテラスに向く植物は？

A 家のためには湿気がこもらないほうがいいので、あまり水がいらない植物の方が向いています。また、外よりも日照時間が短いので、それに耐えられる植物。私は自分の家で、水をどのぐらいやらないといつか試したり、北側で花を咲かせる庭用の植物を育てたり、いろいろ実験しています。実際に植え込む場所をよく観察し、日照時間を想定し、植物を選定することがポイントです。



インナーテラスの上の天井。斜め天井には電動開閉トップライト、中央上部にはトップライトピットが。

トップライトピットの内部。左右の開口部は、気温が上がるとルーバーが自動的に開放。左右に風が抜けることで負圧が生じ、下から煙突のように風を吸い上げます。

